

平成27年7月1日から、難病の方へ向けた 難病医療費助成制度の 対象疾病が拡大します

■ 平成27年7月1日から

難病医療費助成制度の対象疾病（指定難病）が**306疾病**に拡大されます。
（既存の110疾病に196疾病※が追加となります）

※ 対象となる疾病一覧は、厚生労働省のホームページからダウンロードできます。
「難病対策」で検索可能です。
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/kenkou/nanbyou/index.html

難病対策

検索

- 追加される疾病の患者さんで、症状が一定程度以上または高額な医療費※を支払っている場合は、医療費助成制度を利用できるようになります。
※ 対象となる疾病の月ごとの医療費総額が、33,330円を超える月が年間3回以上ある場合です。
- 医療費助成の申請がなされた場合、一定の要件を満たすことにより対象となる疾病の医療費の自己負担が軽減されることを説明してください。
- 医療費助成を希望する患者さんには、申請手続きの詳細について、お住まいの都道府県の担当窓口にお問い合わせするように説明してください。
- 疾病の概要、診断基準、診断書（臨床調査個人票）は、厚生労働省のホームページからダウンロードできます。
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000062437.html>

1. 制度の概要

- 指定難病の医療費の自己負担割合が3割から2割※に引き下げられます。
※ 医療保険上で3割負担となっている患者さんの負担割合が2割となります。
1割負担の患者さんの負担割合は変わりません。
- 指定難病の特性に配慮し、外来・入院の区別を設定しないで、世帯の所得に応じた医療費の自己負担上限額（月額）が設定されます。
- 自己負担上限額は、受診した複数の医療機関などの自己負担をすべて合算した上で適用されます。

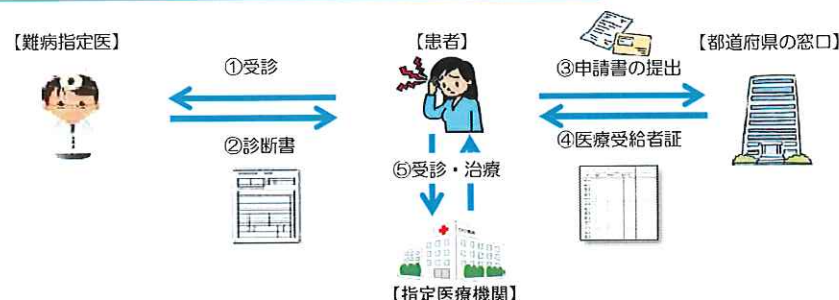
階層区分	区分の基準(市町村民税)	自己負担上限額(月額)		
		一般	高額難病治療継続者※1	人工呼吸器等装着者※2
生活保護世帯	—	0円	0円	0円
低所得Ⅰ	非課税(世帯)本人収入:~80万円	2,500円	2,500円	1,000円
低所得Ⅱ	非課税(世帯)本人収入:80万円超	5,000円	5,000円	
一般所得Ⅰ	課税以上7.1万円未満	10,000円	5,000円	
一般所得Ⅱ	7.1万円~25.1万円未満	20,000円	10,000円	
上位所得	25.1万円以上	30,000円	20,000円	

※1 月ごとの指定難病の医療費総額が5万円を超える月が年間6回以上ある場合です。
※2 人工呼吸器などを装着している方の場合、所得に関係なく一律1,000円となります。

2. 難病医療費助成制度に関する申請について

- 申請の際には次の書類が必要となります。
 - ① 診断書（臨床調査個人票）
 - ② 申請書（指定難病医療費支給認定用）
 - ③ 公的医療保険の被保険者証のコピー
 - ④ 市町村民税の課税状況の確認書類
 - ⑤ 世帯全員の住民票の写し
 なお、都道府県の窓口から申請者（患者さん）に対して、①から⑤以外の書類の提出を求める場合があります。
- 申請方法
お住まいの都道府県の窓口に提出するように、患者さんに説明してください。

3. 難病医療費制度の申請の流れ



平成27年7月から難病医療費助成制度の対象となる新たな疾病一覧

医療費助成の申請手続きについては、お住まいの都道府県の担当窓口にお問い合わせください。

疾病名		疾病名		疾病名		疾病名	
ア	アイカルディ症候群	キ	ギヤロウェイ・モフト症候群	セ	脆弱X症候群	ヒ	皮膚下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症
	アイザックス症候群		急速進行性糸球体腎炎		脆弱X症候群関連疾患		ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症
	I g G 4 関連疾患		強直性脊椎炎		脊髄空洞症		ビタミンD依存性くる病/骨軟化症
	アッシャー症候群		巨大静脈奇形（頸部口腔咽頭びまん性病変）		脊髄髄膜瘤		ピッカースタッフ脳幹脳炎
	アトピー性骨髄炎		巨大動脈奇形（頸部顔面又は四肢病変）		先天性横隔膜ヘルニア		非特異性多発性小腸潰瘍症
	アペール症候群		巨大リンパ管奇形（頸部顔面病変）		先天性核上性球麻痺		ヒルシュブルグ病（全結腸型又は小腸型）
	アラジール症候群		筋型糖原病		先天性魚鱗癬		ファイファー症候群
	有馬症候群		筋ジストロフィー		先天性腎性尿崩症		ファロー四徴症
	α1-アンチトリプシン欠乏症		クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群		先天性赤血球形形成異常性貧血		ファンコニ貧血
	アルポート症候群		クルーゾン症候群		先天性大脳白質形成不全症		VATER症候群
イ	アレキサンダー病	ク	グルコーストランスポーター1欠損症	ソ	先天性ミオパチー	フ	フェコレクテン尿症
	アンジェルマン症候群		グルタル酸血症1型		先天性無痛無汗症		副甲状腺機能低下症
	アントレー・ピクスラー症候群		グルタル酸血症2型		先天性葉酸吸収不全		複合カルボキシラーゼ欠損症
	イソ古草酸血症		クロンカイト・カナダ症候群		前頭側頭葉変性症		副腎皮質刺激ホルモン不応症
	1p36欠失症候群		痙攣重積型（二相性）急性脳症		早期ミオクロニー脳症		ブラダー・ウィリ症候群
	一次性ネフローゼ症候群		結節性硬化症		総動脈幹遺残症		プロピオン酸血症
	一次性腹性増殖性糸球体腎炎		限局性皮膚異形成		総排泄腔遺残		閉塞性細気管支炎
	遺伝性ジストニア		原発性高カイロミクロン血症		総排泄腔反症		ペリー症候群
	遺伝性周期性四肢麻痺		高IgD症候群		ソトス症候群		ヘルオキシソーム病（副腎白質ジストロフィーを除く。）
	遺伝性鉄芽球性貧血		好酸球性副鼻肺炎	タ	ダイヤモンド・ブラックファン貧血		片側巨脳症
ウ	遺伝性肺炎	コ	抗糸球体基底膜腎炎		第14番染色体父親性ダイソミー症候群	ホ	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群
	ウィーバー症候群		高チロシン血症1型		タナトフォリック骨異形成症		ポルフィリン症
	ウィリアムズ症候群		高チロシン血症2型		多脾症候群		マリネスコ・シェーグレン症候群
	ウィルソン病		高チロシン血症3型		タンジール病		マルファン症候群
	ウエスト症候群		後天性赤芽球病		単心室症		慢性再発性多発性骨髄炎
	ウェルナー症候群		コケイン症候群		弾性線維性仮性黄色腫	ミ	ミオクロニー欠伸てんかん
	ウォルフラム症候群		骨形成不全症		胆道閉鎖症		ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん
エ	エーラス・ダンロス症候群		5p欠失症候群		遅発性内リンパ水腫		無脾症候群
	ATR-X症候群		コフィン・シリズ症候群		中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		無βリポタンパク血症
	エプスタイン症候群		コフィン・ローリー症候群		低ホスファターゼ症		メーブルシロップ尿症
	エプスタイン病	サ	鯉耳腎症候群		禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症		メチルマロン酸血症
	エマツエル症候群		左心低形成症候群		特発性後天性全身性無汗症		メビウス症候群
	黄斑ジストロフィー		三尖弁閉鎖症		ドラベ症候群		メンケス病
	大田原症候群		色素性乾皮症	ナ	中條・西村症候群		モワット・ウィルソン症候群
	オクシピタル・ホーン症候群		自己免疫性出血病XIII		那須・ハコラ病		ヤング・シンプソン症候群
	オスラー病		シトステロール血症		軟骨無形成症		コ遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん
カ	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		紫斑病性腎炎		難治頻回部分発作重積型急性脳炎		ヨ4p欠失症候群
	家族性地中海熱		脂肪萎縮症		22q11.2欠失症候群		ラスマッセン脳炎
	家族性良性慢性天疱瘡		若年発症型両側性感官聾		乳幼児肝巨大血管腫		ランドウ・クレフナー症候群
	カーニー複合		修正大血管転位症		尿素サイクル異常症		リジン尿性蛋白不耐症
	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群		進行性骨化性線維異形成症		ヌーナン症候群		両大血管右室起始症
	歌舞伎症候群		徐波睡眠期持続性棘波を示すてんかん性脳症		脳黄変色腫症		リンパ管腫症/ゴーハム病
	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		神経細胞移動異常症		ノ脳表ヘモジデリン沈着症		ル類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）
	肝型糖原病		神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症		嚢胞性線維症		レーベル遺伝性視神経症
	間質性膀胱炎（ハンナ型）		神経フェリチン症		肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）		レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症
	環状20番染色体症候群	シ	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		肺動脈低換気症候群		レット症候群
キ	完全大血管転位症		心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		P C D H 19 関連症候群		レノックス・ガストー症候群
	眼皮膚白皮症		スタージ・ウェーバー症候群		肥厚性皮膚骨膜症		ロスマンド・トムソン症候群
	偽性副甲状腺機能低下症		スミス・マギニス症候群		非ジストロフィー性ミオトニー症候群		肋骨異常を伴う先天性側弯症